

20 世紀の太陽、金日成主席

スレシュ・パタク

アジア・チュチェ思想研究所理事

インド金日成・金正日主義研究会会長

金日成主席の業績を要約するというのは、実に骨のおれる作業です。なぜなら、金日成主席がなしとげた世界にたいする貢献は、一遍の言葉では言い表すことができないからです。にもかかわらず、わたしは、金日成主席の人類への偉大な貢献のごく一部に言及するということで、みなさん方にお許しを請い、その課題にできるかぎり応えていきたいと思えます。

偉大な星、金日成主席は、1912年4月15日、北東アジアに位置する朝鮮、ピョンヤン市郊外のマンギョンデという村に誕生しました。幼少の頃より才能が抜きんでいた少年は、日本の統治者によって虐げられている同胞の悲惨な状況を目撃し、強く心を痛めていました。この少年は、朝鮮にたいする冷酷な日本人統治者を憎悪していた父親の影響を強く受けていました。

金日成主席は、年若くして日本の統治に反対してたちあがった真の愛国者でした。金日成主席は10代で打倒帝国主義同盟を結成し、その後、反帝同盟、反日人民遊撃隊を結成して、頑強にたたかいました。金日成主席は革命家のなかでもっともすぐれた革命家でした。

祖国への真心、献身性、純粋な愛、そして、横暴な日本の統治からかならずや祖国を解放しようとする燃えるような情熱は人々の心

をつかみました。もっとも覇気あふれるこの青年期、金日成主席は、外国の支配のくびきから祖国を解放するためのたたかいに、全面的に投じていきました。そして、ついに、生きても死んでも、ただ一つ祖国のためにたたかうことを目的とする、献身的な人民によって構成される軍隊を創建しました。朝鮮人民はかつてよく石や木の皮に秘密の情報を記しましたが、そうした情報が記された石や木の皮から、わたしたちは多くのことを知ることができます。

これは、あまりにも素朴でたわいのないことのように思えるかもしれませぬ。しかし、この分野の専門家は、そのような話のなかから、金日成主席が祖国解放の大志を人々の心のなかに抱かせたということやうかがうことができます。ついに、残虐な日本軍国主義は朝鮮から撤退するにいたり、朝鮮は解放されました。1945年8月15日に朝鮮は独立しました。

このように朝鮮を解放するという目的は達成されましたが、金日成主席は、幅広い並外れた知恵をもち、未来にたいする壮大な展望をいただいていた。主席は、同志たちを結びつけていた共通の目標(独立の達成)が実現されたので、かれらに実現すべき理想を明示しなければならぬことを知っていました。民衆にたえまない感動をあたえ、進歩と前進の道に導いていく統一的な力をきずいていくために、金日成主席は、チュチェ思想を創始し、民衆がさらに力をもつための思想を手にすることができるようにし、たたかいを力強く押し進めていきました。

この脈絡において、金日成主席は、チュチェ哲学を強調しました。チュチェ思想の主要な内容として、自主性、創造性、意識性があります。

金日成主席は、自主性が人間の属性であると明らかにしました。いい換えれば、人間は自己の自主性を堅持していかなければならないということです。

金日成主席は、「自主性は、世界の主人として自由に生きることを欲する人間の属性です」と明らかにしました。

ここでは、個々の人間は、地球上の偉大な人民、偉大な思想家を背景にもつ存在を意味します。自主性について、世界中の偉大な思想家たちが、その時代ごとに強調してきました。

例えば、フランスの偉大な思想家であるジャンジャック・ルソーは、「人間は生まれたときから自由である」と言い、エイブラム・リンカーンは、「自分は奴隷にもならないだろうし、主人にもならないだろう」と述べました。

インドの偉大な自由の闘士、バル・ガンダル・ティラクは、自由は人間が生まれながらにしてもつ権利であり、また、今後獲得していく権利である」と述べました。

あるヒンドゥー教の詩人は、鳥かごのなかに入れられた鳥が、そのような境遇を嘆いているといいながら、あの鳥は広大な空のもとに飛び交う鳥たちなのです、だから、鳥かごの金色の柵により、羽ばたこうとするとき鳥の羽はきずついてしまうのです、と言いました。そして、世界中のさまざまな地域で、さまざまな時期に、人間は、暴君によって抑圧されるならば、自由を求めて暴君とたたかっていると述べました。

自由が人間にとってどれほど大切なものであるかについて、つぎのようなことわざがあります。

「地獄で気ままに暮らす方が、天国で使用人となるよりましだ」

つまり、金日成主席は、こうした事実についてよく知っていましたので、チュチェ思想を創始することにより、この事実を広めていきました。

金日成主席は、チュチェ哲学のもう一つの重要な位置を占める「創造性」についてつぎのように語りました。

人間にそなわったもう一つの属性である「創造性」について、金日成主席はつぎのように言及しています。

創造性は、自国や自国人民の豊かな生活に寄与します。創造性があるがゆえに、人間は富を生み出したり、生きるために、よりよい生活をするために、多くものを生産していきます。創造性があるがゆえに、立ち上がり、祖国の繁栄のためにたたかい、献身するよう、人々に呼びかけるのです。

つぎに、「意識性」について述べます。金日成主席は、自己の境遇について自覚し、認識しなければならないということを民衆に悟らせました。過酷な統治下で呻吟していながら、民衆は、自己の過酷でみじめな境遇について、全面的に認識していませんでした。悲惨な境遇にあるのは神のご意思であるとか、それが自分の運命なのだとか、ただ単純にそう思っていました。論点を明確にするために、つぎの例をあげます。

痩せて腹をすかした野生の犬がたまたまある村に入りこみました。そこで、十分に栄養をとって肥えた犬と出会いました。村の犬は、威張りながら、その森の犬に、自分は快適な生活を送っていると言いました。しかし、森の犬は、村の犬には首輪がついていることがわかり、それはなにかと尋ねました。村の犬は、それは、主人にこびへつらう象徴だ、しかし、それでも自分は快適な生活をしている

と言いました。そして、村の犬は、森の犬に村に来て一緒に暮らそうと誘いました。しかし、森の犬はだまって立ち去りました。

この寓話は、地獄で気ままに暮らす方が、天国で使用人となるよりましだという教訓を明確に教えています。

金日成主席は、朝鮮人民が自己の権利と、人生においてもっとも重要な善である自由について認識することを願いました。

ここでわたしは、さらにもう一つ、ヒンドゥー教の教えと関連した寓話をご紹介します。偉大な戦士であるハヌマーン卿は、自分の計り知れない能力についてまったく自覚できていませんでしたが、ジャーンバヴァーン卿はハヌマーン卿にそのことを想起させ、結果として、ハヌマーン卿は、自己のすばらしい能力を認識することができました。その結果、ラム卿が与えた多くの難しい課題を完遂することができました。

つまり、金日成主席は、朝鮮人民に自己の内なる力を自覚させたいと願いました。朝鮮人民がもし自己の力を自覚できなければ、休眠状態から醒めることができませんでした。当時、打ちひしがれ、希望をなくし、自己の内なる力を自覚することはまったくできなかった朝鮮人民に、自己の内なる力を自覚させたことは、金日成主席の実に大きな貢献でした。

このように、わたしたちは、チュチェ思想とは、希望、よりよい生活、繁栄、そして自分自身の能力、力にたいする誇りについて明らかにした思想であると理解しています。

まとめると、金日成主席は、まだ覚醒していない人民を目覚めさせ、自己の内なる力を自覚させたことができます。つまり、チュチェ思想は、めざめていない人民を覚醒させる万能薬であり、人々に希望、自信、自己の能力にたいする信念をいだかせます。つ

まり、チュチェ思想は、素朴で控え目な人々を餌食にして自己の覇権を行使しようとするあらゆる術策を講じている、植民地支配者にどのように立ち向かうか、正しい回答を与えたといえることができます。

チュチェの松明を燃やし続ける金正日総書記は、朝鮮において先軍政治をかけた。軍事力を保有するために、金正日総書記は、軍備を整えることを優先し、自衛力の分野で朝鮮を世界の強国に変えました。先軍政治は、この新興独立国家に、またもやこの国を従属国にしようとする、植民地主義者と立ち向かう力を与えました。

そして、今日においても、この話はつづいていきます。今日の指導者金正恩総書記の確固たる指導のもとに、朝鮮は、地球上で最強とされている米国に互角に立ち向かっています。いまま朝鮮は、国家の誇りをかかげてたたかいつづけています。帝国主義大国と台頭にわたりあっているのです。朝鮮の自主は、確固と守られています。朝鮮における経済的発展が全面的に展開されているという事実は、金正恩総書記の賢明な指導によるものでしょう。金正恩総書記は最近、人民のための数千戸の住宅建設用地に直接出向きました。帝国主義によって経済制裁が課されている状況のもとでも、朝鮮の全面的な発展が確固と守られているのです。